

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、課題の見える学年もあるので、引き続き「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、個別に蓄積されたデータを活用し、習熟を図る必要がある。 また、国語の主語・述語に全学年課題がみられたため、全教科で振り返りを書く際に、主語と述語を明らかにしながら書かせることを重点的に取り組み、令和7年度の全国学力・学習状況調査等で改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定することで、自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力がついてきた。しかし、個人差があるので、学校で系統性のある「振り返りの視点」を定め、それをもとに振り返りを行わせる必要がある。 また、「協働的な学び」の視点から、児童が主体的に課題を解決するためには、多様な他者と関わることも重要である。そのために交流活動の目的意識や伝え合いの仕方を確認できる学びカードの活用や、他者参照のできるクラウドを活用した授業づくりに取り組み、令和7年度の全国学力・学習状況調査等で改善状況を検証していきたい。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語では、文法、漢字などの基礎的な内容に課題がみられた。算数でも、基礎的な問題である四則計算や面積や体積を問われる問題に課題がみられた。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 授業中や家庭学習で、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【週1回の学習タイム】学習履歴を確認し、個に応じた指導を行う【月に1度は確認】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 【指導上の課題】 児童が自らの学びを振り返る時間を確保できていない。	⇒ 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りをふまえて、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で10分実施】。

⑤ 評価(※) 授業改善策の達成状況	
知識・技能	A 週1回の学習タイムに「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復練習が習慣化し、習熟を図ることができた。また、長期休業中は、3年生以上にスタディサプリの課題を出すことで、個人の進捗差を埋め、学期はじめから個に応じた指導を行うことができた。 学年で教材研究を密に行い、単元のつながり意識し、教科横断的に授業を計画することができた。令和6年度さいたま市学習状況調査「授業で学んだことを、ほかの学習でいかしていますか」の質問項目では平均95%となった。
思考・判断・表現	A 授業づくりを見直し、授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにした。また、振り返りをふまえて、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することができた。令和6年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目では肯定的な回答が平均93%となり、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考えを、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では肯定的な回答が平均96%となった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語も算数も全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。 国語では、「言葉の特徴や使い方」に課題がみられた。その中でも主語と述語との関係をつかめる問題の正答率が低かった。また、漢字の書き取りの正答率も低かった。タブレット端末を活用して考えや感想を書かせることも増え、実際に漢字を書く機会が少なくなったことも一要因として考えられる。 算数では、「変換と関係」に課題がみられた。その中でも「速さ」の問題の正答率が低かった。速さなどの単位量あたりの大きさの意味や表し方についての理解できていない児童がいた。日常生活と関連付けながら授業できるようにする。
思考・判断・表現	国語も算数も全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。 国語では、記述式の問題で、事実と意見、理由を区別せず、与えられた条件を満たすことができない児童が多かった。分りやすく自分の考えを書くことに課題がみられた。 算数では、「図形」において課題がみられた。球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係をつかみ、立方体の体積を求める問題では、体積の単位とこれまで学習した単位との関係を考察できていない児童が多かった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、3～6年生で「言葉の特徴や使い方」に課題がみられた。どの学年も主語と述語との関係をつかめる問題の正答率が低かった。日常の会話でも主語が省略されることが多く、動詞や形容詞が重要な役割を果たす場合があり、正しい理解ができていないと考えられる。 算数では、どの学年も正答率が高かった。今後もドリルパークやスタディサプリの活用で、基本的な計算等の反復・習熟に取り組んでいく。
思考・判断・表現	国語では、高学年では「話すこと・聞くこと」の正答率が他の区分に比べて低かった。しかし、同集団比較だと正答率の上昇が見られた。引き続き、ポイントを意識してスピーチしたり、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をしたりする活動を大切にしていこう。 算数では、どの学年も正答率が高かった。昨年課題のあった「データの活用」では、類似問題の経年での比較より、上昇がみられた。二次元表の読み取りや、その特徴を用いて2つの観点からデータを分類し、説明する活動を取り入れていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリの活用は週1度は取り組むことができた。しかし、クラスや個人によって差が見られた。学習履歴を確認し、個に応じた指導を行うことはできた。	今までの授業改善策に加え、学習した内容を自分の生活と関連付けながら活用できる知識・技能を修得させるようにする。単元のつながり意識し、教科横断的に授業を計画する。【毎時間】
思考・判断・表現	B	授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することができた。しかし、振り返りができない授業もあった。また、振り返りを次時に生かす工夫も必要であった。	今までの授業改善策に加え、子どもの思考を促すために、教師が言葉を大切に的確な発問をするようにする。【毎時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)